

週刊 学びのコミュニティ

第32号

平成21年11月11日発行



【授業紹介No.1】

社会人の方が参加してくださっている授業の様子を、今後少しずつご紹介いたします。

第1弾は、教養科目「**アクティブラーニングで環境から科学を考える**」です。

(水曜日 3・4 時限/担当：齊藤 隆仁准教授、嵯峨山 和美特任助教)

この地球（ほし）を未来につなぐ学びの10年

このタイトルは、2005年から始まった「国連ESDの10年」実施計画のキャッチフレーズです。

ESD (Education for Sustainable Development : 持続可能な開発のための教育) とは、「単なる知識の取得や理解にとどまらず、自ら行動できる人材、即ち、地球上の人間と環境との関わりについて正しい認識に立ち、自らの責任ある行動をもって持続可能な社会づくりに主体的に参画できる人材の育成」を基本理念としています。つまり、人と地域と地球の未来を考えて行動できる人になるよう学び合うことです。物質的に恵まれたわたしたち日本の豊かな生活や行動は、環境破壊や環境汚染だけではなく、世界の南北問題・貧困・人種差別・紛争や戦争など、地球上で起こっているあらゆる問題と深くかかわっています。

現在、平成21年度後期 教養科目「アクティブ



ラーニングで環境から科学を考える」という授業を開講しています。この授業では、「一人ひとりが世界の人々

や将来世代につながり、また環境との関係性の中

で生きていることを認識し、自分とは異なる考え方の他者とかかわり合いながら、共生社会への構築を目指し、自分の役割を考え、自分なりの考えを持って行動できる人になるよう学び合うこと」



を目的にしています。そして、身近なもの（携帯電話やパーム油）から世界、特に開発途上国とのつながりを認識し、日本やこれまでの自分とは異なる視点からさまざまな事象を社会人ボランティアの皆さんとグループ学習で、問題点や解決策について意見を出し合っています。

実は、日本自体がエネルギーや食糧、それに、工業資源もほとんど外国に依存しており、持続可能な自立ができない国です。私たちは、将来世代を含めた人類の共有財産である資源と環境とに依存しながら「豊かな国」だと思っています。この豊かさは持続可能なのでしょうか？そして、この豊かさとは何でしょう？

今、世界が、日本社会が、「環境との調和」や「共生社会」への実現に向け、少しずつ動き出しつつ

あります。私たちも身近なところから、できるときに、できることを考えて、継続していきたいと思えます。多様な世界の人々の生き方を学びながら、「持続可能な社会」について一緒に考えてみましょう。

(文責：嵯峨山和美)



このテーマで
学びのコミュニティを開催する予定です。
日時： 未定（相談）
場所： 学生支援室
詳細は決まり次第お知らせいたします。

開発途上国に関する資料を見たい、詳しい話を聞きたいなど興味をお持ちの方は学生支援室 嵯峨山までお問い合わせください!!



学びのコミュニティ-Hatoba企画!

恋のうた学習会

へのお誘い

前号で告知しました『恋のうた学習会』の詳細が決定いたしました。

日時：毎週金曜日 15:00~16:30 くらい

場所：学生支援室

教材：万葉集（恋のうた限定!）

初回 **11/20(金)** はソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部の **堤 和博准教授** を特別講師としてお招きし、ガイダンスして頂き、その後実際に四首の恋のうたを鑑賞します。

以降、毎週開催予定です。毎週来て頂いても、好きなうたの時にだけの参加でも構いません。みなさま奮ってご参加くださいませ。

★お申込み・お問い合わせは、

学生支援室（656-7205）へ



我が背子に 我が恋ふらくは 夏草の刈りくれども 生ひ及くごとし

このうたは、この企画を立ち上げ、先生への交渉、うたの選定、広報まで全て担当している学生さんの選んだ一首です。このうたの相手を想う気持ちの激しさに心打たれ、この企画への想いが深くなったそうです。みなさまにもそんなお気に入りの一首はありませんか…

儂い恋、燃えるような愛、その形はさまざま、この時代を生きた人たちの心や生活を伺い知ることができます。同時に、人を想うことに伴う喜びや苦しみは、今の私たちと何ら変わることはない、そのことに気づくことでしょう。31文字にしたためられた想い、この機会に感じてはいかがですか。

～編集後記～

“持続可能な社会”と言うと、まず環境やエネルギーの問題が頭に浮かびます。地球上の資源に限りがある、その重大で深刻な事実が私たちに突き付けられています。しかし、環境に優しい生活をしようと頑張っても、経済的に大きな負担となったり、極端な不便を強いられたりでは持続するのは困難です。どうしたら共生していけるのか。たった今この時から自分には何ができ、何を継続していったらいいのか、無関心にならず、考えていくことから始めたいと思えます。(境)